

市民活動支援策の視察報告

1. ちよだボランティアクラブ

地域で活動するボランティア団体を応援するために、企業と地域の新しい協働の形を制度化したものの。企業からの新たなボランティア参加や資金提供につながっている。

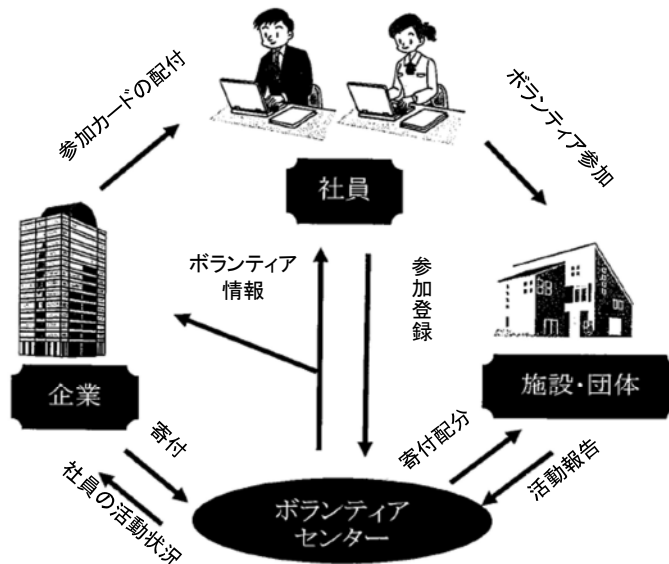
(1) 視察先

千代田区社会福祉協議会

(2) 沿革

- ・地域の課題解決を図るために、地域通貨の一環としてボランティアが巡回する仕組みとして考案された。
- ・平成 20 年度までは、チケットで運用していたが処理の負担が大きかったため、平成 22 年度から「ちよだボランティアクラブ」としてカードID番号による記録管理に変更した。
- ・社員のボランティアとマッチングギフトの仕組みを応用した。

(3) 概要・特徴等



ア 企業側の主なメリット

- ・寄付金の流れ、使われ方が明瞭。
- ・株主への報告が容易。(CSR活動として、数値化され、具体的に説明できる)
- ・一般のCSR活動と異なり、ボランティアプログラムを企業側が用意しなくて済む。
- ・企業にとって、寄付金は税控除の対象となる。

イ 社員側の主なメリット

- ・企業の理解が得られ、ボランティア活動がしやすくなる。
- ・企業の決めたボランティア活動でなく、自主的に関心のある活動に参加出来る。

ウ 団体側の主なメリット

- ・新規のボランティアを集めやすくなる。
- ・マッチングが生じると活動資金を得ることができる。

2. 和泉市あなたが選ぶ市民活動支援事業(愛称ちよいず)

市民活動団体が実施する事業に対して市が補助金を交付。その額は、18歳以上の市民が、支援したい市民活動団体の事業を選択し市へ届出(投票)し、その数によって額が決まる補助制度。

(1)視察先

大阪府和泉市公民協働推進室

(2)取組に至る背景

市民の意思を反映した補助事業を作るという市長公約により、制度の創設に向けて動き始め、市川市の1%支援制度を参考に本制度を構築した。

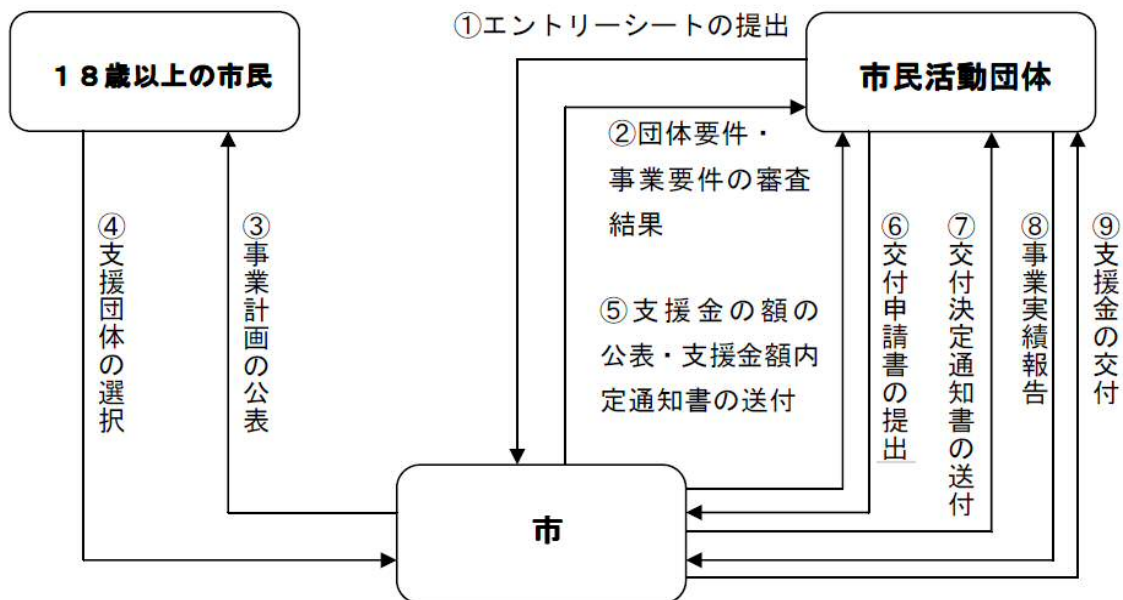
(3)概要

本事業では、市民活動団体の提案事業内容が広く市民の支援(共感)を得られるかどうかで支援金額(助成金額)が決定する仕組みとなっている。このため、市民活動団体と支援する市民との相互の関係性構築や市民活動の周知にもつながっている。

【特徴】

- ・個人市民税の1%(H28年度591円)を個人が選択した団体に支援金として助成する。
- ・市民の届出数に応じて支援金額が決まる。(H28年度:申請33団体・届出率14.3%)
- ・全世帯(世帯数7万7千)に申請団体や制度のパンフレットを配布している。

【事業フロー図】



(4)成果・課題等

- ・届出率が当初より5%アップした。
【H23年度9.3%(13,945人)→H28年度14.3%(21,824人)】
- ・時限設定がないため、同様の事業を申請してきている団体もあり、団体の成長が計りにくい。
- ・申請数・届出数共に近年一定となっており伸びていない。

3. 吹田市立市民公益活動センター「ラコルタ」における市民活動支援事業

(1) 視察先

大阪府吹田市立市民公益活動センター

(2) 施設の概要等

設置目的: 市民公益活動の促進を図り、もって地域社会の発展に寄与することを目的に設置。

開 設: 平成24年9月

施設機能: 交流スペース、会議室(3室)、貸事務室(8ブース)、キッズスペース、展示コーナー、相談窓口、情報コーナー、貸ロッカー、貸倉庫等

施設面積: 約 380 m²

運営体制: 公設民営(指定管理者: NPO法人市民ネットすいた)

利用者数: 平成27年度 約59,000人

(3) 視察事業

①「ふちボラ」プログラム

仕事・家事・学校で忙しい人などに、週末や余暇の新しい過ごし方として、「短時間でできる(ふち)ボランティア活動」のプログラムを提供し、ボランティアを体験してもらう。

ア 活動終了までの流れ:

センターへ申し込む⇒社会福祉協議会のボランティア保険へ加入

⇒活動(スタッフが受け入れ先まで活動者を連れて行く)⇒後日アンケートの提出

イ 成果・課題等:

- ・年間約100件のプログラムに約120名が参加。学生や現役世代の方も体験している。
- ・プログラムの調整や現地までの同行などに時間を取られ、プログラムを増やせない。

②シャカイコウケンHANDBOOK

市民活動の担い手を育てるため、青少年および若年層が社会貢献活動に主体的に参画し、地域課題に取り組むことができるよう、社会貢献とは何かをわかりやすく説明したハンドブックを制作。公共施設、市民活動団体、学校などで配布。

ア 掲載内容:

社会貢献とは／大学生座談会／NPO 法人代表によるエッセイ／役立ち情報等

イ 成果・課題等:

- ・高校に授業プログラムや出前講座の相談をしたが実現しなかった。
- ・直接的な効果か判断しにくいだが、他の事業への若年層の参加が見られるようになった。

③協働コラボ de ブラボ

吹田市内の多様な主体が関わる先進的な協働事例をまとめ、発信することで、市民活動団体や行政・事業者等の協働を促進する。公共施設で配布。

ア 掲載内容:

取組みに関わる人や、活動のプロセスを中心に、協働の意義や進め方を分かりやすく表現し、協働の手引きとして、活用してもらえるようにパンフレット形式で作成している。発行したものは公共施設に配架している。

イ 成果・課題等:

- ・市が発行していたものを、指定管理者が発行したことにより、市民の目に留まるものになった。
- ・また、パンフレットだけではなく、ポスターとしても使えるものとした。
- ・行政や事業者などから協働について、相談があり、マッチングにつながった。
- ・協働の事例をもっと情報収集すること。

④eNカレッジすいた

50～60歳をターゲットに、活動に役立つ知識や技術が身に付くように、「開校式&イントロ講座」「エンパワメント講座」「ぶちボランティア体験」「働き方講座」「コミュニケーション講座」「振り返り&進路説明会」の6回連続講座を開催している。

ア 成果・課題等:

- ・今年度は30人定員のところ31名の申し込みがあった。(現役世代の参加割合が高い)
- ・センター主催以外に、「連携講座」として、他の組織で行っている活動に役立つ各種養成講座の情報も収集して、本事業の周知と併せて情報発信をすることで相乗効果が出ている。
- ・企業からリーダー育成の講座の講師を依頼されるようになった。
- ・受講者の約半数がラコルタサポーターに登録した。

⑤ラコルタサポーター

ラコルタサポーターとは、センターを身近に感じ、センターの様々な事業や交流スペースの活用方法などをスタッフと一緒に考え、センターの運営を支援する人。今までボランティアをしたことがない人にも参加しやすいよう、センターは手厚いサポートをしている。

ア 登録者数:約40名

イ 活動までの流れ: 個別相談 ⇒ 登録用紙の記入 ⇒ 登録証発行

⑥相談窓口

ボランティアを始めたい人の相談をはじめ、NPO法人化のお手伝いや、専門家による特別相談など、市民活動に関する様々な相談に対応している。平成27年度の相談件数は約400件。

相談内容は「企画のタネ」と位置づけ、対応できることは実施事業の改修や新規事業で積極的に実現している。また、相談体制充実のための会議を月1回実施している。